

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300245		
法人名	社会福祉法人 悠々の郷		
事業所名	グループホーム錦 (ひばり・とき)ユニット		
所在地	那須塩原市錦町11-6		
自己評価作成日	平成29年1月23日	評価結果市町村受理日	平成29年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成29年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で暮らせるよう職員も笑顔で対応し、一緒に楽しく生活出来る様なホームを目指している。
施設をせず開かれたホームであるよう、注意を払い職員は対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、リビングや通路が広くて天井も高く、開口部が多いので全体的に明るくゆったりとした構造となっている。居室は掃きだし窓で通風や採光は十分で、災害時の避難にも適した造りである。そうした生活環境の中で、職員は法人グループホーム事業目標である「その人らしく・自分らしく・生きいきと」を念頭に、利用者が快適に生活できるよう支援に取り組んでいる。季節の食材の差し入れや利用者の希望に応じてメニューの変更を柔軟に行っている。また、朝の忙しい時間帯には、パート職員を雇い職員が利用者の支援に専念できるような体制をとっている。目標達成計画の課題であった「運営推進会議への利用者や家族の参加」に取り組み始め、利用者の生活状況や職員紹介等を掲載した「錦だより」を定期的に発行して家族に送付するなど、運営改善に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念及び基本方針に基づき、共有して実践するように努めている。	法人の基本理念「私たちは、利用者の方々に厚い信頼、深い満足を得られるように自己研鑽に努めます」と、グループホーム事業目標「その人らしく、自分らしく、生きいきと」が設けられている。職員はそうした理念と目標を念頭に置いて、利用者が笑顔で暮らせるよう職員も笑顔で対応することを心掛けていて、一緒に楽しく生活できる場所になることを目指している。	法人理念や事業目標の内容を、日々のサービス提供場面で具体的にどう実践していくかという話し合いを全職員で行い、その結果を例えば年間目標とするなど、ケアの質の向上に向けた取組に繋げていくことが期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議で、行事の予定など情報交換を行い、自治会や地域との関わりも少しずつ持ってきている。	地域の「いきがいサロン」に参加している住民に、事業所の見学に来てもらうなどの取組を行っている。しかし、近隣住民との日常的な交流はほとんどなく、事業所の夏まつりなども内部的な行事に留まっており、地域との交流は十分行われていないのが現状である。	地域における事業所の認知度が低いことが窺えるので、例えば自治会への加入や地域の幼稚園や学校等への働きかけ、事業所行事への住民の参加等、今後地域との交流を図る取組を強化していくことが望まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長さんの計らいにて、地域の方にホームの見学をして頂き、その席で認知症についてやグループホーム入所の基本条件などを、お話しさせて頂き、理解をして頂けるような活動をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催している。 ホームの状況報告、出席者の意見を頂きながらサービスの向上につなげている。	市担当職員・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員に加え、利用者と家族も参加して年6回会議を開催している。自治会長から地域の行事等の情報を得られるようになり、徐々に地域との交流が図れるようになっていく。会議への利用者の参加を試みたが、終了後不穏になってしまった利用者もあり今後どうするか検討しているところである。	運営推進会議への利用者や家族の参加は望ましいことなので、無理のない形で会議に参加できるよう今後検討していただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換の場を設けると共に、生活保護受給者様の相談・対応などで協力関係を築いている。	市担当職員は、運営推進会議に毎回参加しており、様々な情報を提供してもらっている。生活保護受給対象となっている利用者が複数名いるため、日常的に市に連絡したり協力して対応することが多くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束とはどのような事かを理解した上で、身体拘束を行わないようにしている。 玄関の施錠に関して大きなリスクもあるが、職員一人一人が常に注意を払い行っています。	法人の研修を通して身体拘束への理解を深めており、職員は身体拘束に当たる言動のないように努めている。不適切な言葉かけなどがあった時は、その場で管理者が職員に指摘して改善するようにしている。利用者の居室は掃きだし窓となっており、事業所全体も開放的な構造のため、利用者が外に出ていきやすくなっている。そのため職員は常に気を配っているが、出ってしまった場合は職員が側に寄り添い、利用者がある程度満足するまで同行するようにして対応している。	現在は、同一法人内の特別養護老人ホームの「身体拘束廃止マニュアル」を参考にしているが、今後事業所独自のマニュアルを作成して、身体拘束をしないケアの実践を徹底することが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通して虐待行為をしない、させないを徹底している。 また、同時に職員の対応や関わり方についても助言している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で耳にはしているが、理解し活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明はしているが、疑問点を尋ねられた時はその都度説明をし、理解して納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、まだ何の意見ももらえていない。 面会時や電話連絡にて状況報告や情報を共有する際、言いやすい環境を作れるように努めている。	職員は日常生活の中で利用者の意見や要望等を聞き取るようにしているほか、利用者の言動や表情からも意向等を読み取るように心掛けている。また、運営推進会議への利用者の参加にも現在取り組んでいる。毎月の利用料は家族がなるべく事業所に来て支払う方法を取ってもらい、その際に意見等を聞くようにしている。把握した意見や要望等は、職員間で話し合い出来るだけ要望等に沿うよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで意見を聞いたり、個別面談で意見をもらい、反映できるよう努めている。また、法人役員と管理者との個人面談も実施している。	毎月2時間程度職員ミーティング(事業所全体の話し合いの後、ユニット毎に話し合い)を行い、運営や支援方法・利用者の状況等について話し合いをしている。管理者は年1回職員と個別に話し合う機会を設けているほか、職員から管理者向けに随時書かれる連絡帳の内容を運営に活用している。現在、職員の休憩の確保について意見が出ているため、今後検討していくことになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に参加してもらうと共に、外部の研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等に参加して、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は入居者様にとって、とても大きな事。安心して頂けるよう寄り添い、コミュニケーションをとる中で何を欲しているのか情報を得ている。その中で要望に応じて安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際、家族様の要望や困っていることを話してもらえ様な関係作りを目指し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に利用者様の情報、現状を伺っています。何を今望んでいるのかを把握し、ホームで出来る支援を伝え、その方に合うサービスを提案させていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別に本人が出来る事を行ってもらい、ここが自分の居場所だと思って頂けるよう支援しています。出来ない場合でも、職員が一緒に行くことで共有しながら生活ができる環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出、外泊等に制限を設けず家族との繋がりを保てるようにしている。また、何か問題が出たときは家族様と一緒に問題解決に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係があった方が少ないのが現状です。ただ、友人や家族様が面会に来られた時には居心地の良い空間の提供できるよう心掛けています。	家族や親せき・知人等があまりいない利用者が多いが、中には子ども以外に姪が面会に来たり、お盆に家族と墓参りに行く利用者もいる。職員は、面会があった場合はリビングとは別に設けられている談話コーナーや利用者の居室を利用して、気兼ねなくゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を理解し、分かち合えるよう職員が見守っている。そして、出来るだけ孤立することなく一緒に生活出来る様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様からの相談、移動後の施設からの問い合わせに対しても対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや外出、レク等での本人の意向(情報)をみつけ、困難な場合は表情や行動から判断している。判断が違うと感じたら、再度検討している。	職員は、コミュニケーションの取れる利用者からは生活の中で意見や要望等を聞き取るようにしているほか、利用者の言動や表情等から希望や意見を読み取るように心掛けている。また、職員は、利用者への理解を深めて適切な対応が取れるよう、利用者の経歴等もしっかり把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、入居後もご家族様には以前の生活ぶりを教えていただき、それをサービスに活かしていけるよう努めている。また、これまで慣れ親しんで使用していた食器や家具なども持参して頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、リハビリ体操、日常生活を観察する事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や情報を把握し、ご家族様や職員の意見を聞き話し合いながら介護計画を作成している。	介護計画作成者は利用者や家族からの意見や要望等を把握し、職員からの情報収集及び職員ミーティングでのケースカンファレンス結果・モニタリング結果等をまとめ、担当者会議で検討のうえ、介護計画を作成している。利用者の状況等の変化に応じて、適宜介護計画の見直しを行っている。	モニタリングの方法・書式がユニットによって異なっていることから、今後検討の上統一を図ることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入や申し送りノートを活用、ミーティング等で情報を共有し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にもまれるニーズに対しては、出来る限りの対応で対処している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物などで、地域資源を活用し、安全で豊かな生活が出来る様に、職員は常に注意をして対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望に応じ相談・情報共有し受診していただいている。また、ホームと医療機関との情報の共有も行っている。	家族に利用者の状況を伝え、かかりつけ医へ受診してもらっている。家族対応が出来ない利用者には職員が同行受診している。また病院までの送迎が困難な家族には、送迎のみ事業所で行うこともある。職員に伝えられた受診の結果は、申し送りノートに記載して職員全員が把握できるようにしている。職員が医療機関へ直接電話をして確認する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時等に、情報の共有をしている。その際に相談できる体制をとっており、問題が出た時には法人内の看護師にも相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーさんとは密に連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。また、都合のつくときは出来る限り病院に行き相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しの変化から、ご家族様とは相談・報告をするようにしています。ホームで対応できる事と、ご家族様の希望を把握し取り組んでいる。困難ケースは、関係機関に相談しながら、対応している。	重度化した場合の対応については、同一法人内の特別養護老人ホームのマニュアルを基に研修等を行っている。事業所として協力医療機関に相談し、医療的行為が必要になった場合、病状によっては対応が難しいことを家族に説明している。	開所して1年目に看取りをしたケースが一例あり、終末期に対応する方向性は持っている。今後、具体的に事業所としてどのような対応ができるか、独自のマニュアルを作成し、関係機関との協力体制を築いていくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等では学んでいるが実践的な訓練はできていない為、これからの課題になる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、実際に火災報知器の扱い方・避難誘導・消火器の使い方・消防署員との対応などを学んでいる。また、自治会の方々と協力できるように、運営推進会議等で話し合わせて頂いている。	年5回避難訓練を行っており、その内2回は消防署の協力のもとで行っている。スプリンクラー、緊急通報システムが設置されており、いざという時は居室や廊下の段差の無い掃き出し窓からも逃げることが出来るようになっている。発電機やカセットコンロなどは用意されているが、食料や水等の備蓄品については、今後徐々に用意していく予定である。	法人としてのマニュアルはあるが、今後事業所独自の防災マニュアルを作成し、継続して自治会に働きかけを行い、近隣住民との協力体制を築いていけるよう努めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、さりげない声掛けをとるように心掛けている。	管理者は職員に対して、言葉遣いや声の掛け方など、一人ひとりの人格を尊重した丁寧な対応が出来るよう指導している。職員は失禁があった時でも、他の利用者に悟られないよう声をかけて、利用者の尊厳が保たれるよう配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の方向性は決めるが、その中で希望や決定は利用者様にして頂き、決められない時は表情を見ながら判断するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、利用者様がどの様に暮らしたいかを観察しながらみつけ、希望の言える方には言える環境をつくれるよう努めている。また、利用者様の行動について危険のない限りは制限しない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物の際は、出来る限り本人様に見てもらう様にしている。また、その方に合わせた整髪や散髪が出来る様対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作る際は利用者様の要望を取り入れ、旬のものが入った時はメニューを変え柔軟に対応している。季節のものを一緒に作り、食べて楽しい時間を共有している。食後は下膳や片付けも出来る限り一緒にやっている。	ユニット毎に職員が交代で1ヶ月分のメニューを作り、食材はスーパーへ買い出しに行ったり、業者から配達してもらっている。職員は対面式カウンターキッチンで調理を行い、出来る利用者には皮むきなどをしてもらっている。利用者と一緒に梅干し作りを行い、漬けた梅干しはご飯のおかずとして喜ばれている。夏にはユニットごとに畑で野菜を育て、収穫した野菜が食卓を彩っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に食事をする事により、一人ひとりの摂取量や食べ方が把握でき変化があった時は申し送りや記録に残し、職員は状況を共有して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、入れ歯洗浄剤、うがいなど、その方に応じた口腔ケアをしている。その際、出来る限り残存機能を生かした支援を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人にストレスが無いようにその方に合った対応をしている。	ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しているが数名は布パンツで過ごしている。リハビリパンツをはいていても、それぞれの排泄のパターンを把握し、タイミングを合わせて声掛け誘導介助を行い、トイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。夜間帯もトイレで排泄できる人、睡眠を優先したい人など個々に合わせ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操や散歩などを取り入れたり、乳製品や水分摂取やその方の排泄パターンに合わせてトイレでの排便の促し等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に全て合わせることは難しいが、出来る限り訴えに対応出来る様心掛けている。	週に2～3回午後の時間帯を利用し、職員と一対一でゆったりと入浴している。ぬるめの湯に入りたい、ゆっくりと入りたいなど利用者それぞれの要望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。ある程度一人で入浴できる利用者には、介助することは控えて見守りで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔、室温や明るさにも配慮して安眠できる環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが薬の内容を把握し、変化があるときはご家族様と病院とに状況報告を行い、情報を共有出来る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った気分転換を行っている(買い物や貼り絵、畑仕事など) また、みんなで楽しい時間を共有出来る様に、レクやカラオケ、季節の行事なども工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りその時の希望に対応しているが、無理な時は後日対応している。ご家族様の協力もあり、外泊や旅行にも出かけられている。訴えの無い方も定期的に外に出て気分転換できるよう支援している。	利用者の希望に応じて、必要な衣類や日用品の買い物に出かけたり、食材の買い出しに職員と一緒に出かけることもある。また新緑や紅葉の時期などの季節ごとのドライブや外食などは、レンタカーを利用して全員で出かけている。グループ別に午前と午後に分かれて事業所の車を利用して近隣に出かけることもあり、楽しく気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様と相談して管理の方法を決めています。金銭管理の困難な方は管理させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な理由がない限り、電話と手紙のやり取りは自由に行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、利用者様の作品や四季折々のものを飾っている。	ユニットごとに玄関があり、玄関を入るとテーブルとソファが備え付けられている談話コーナーがある。食堂兼リビングには、ねこやなぎやレンギョウ等が花瓶に活けられ、季節を感じられる植物やお雛様、利用者の貼り絵などが飾られている。リビング内に畳コーナーがあり、畳に寝転んで休憩する利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでは同テーブルの方とお話しされたり、個人の居室にて気の合う方と楽しい時間を過ごされています。一人になるようなときは、職員が対応し孤立することが無い様な環境づくりを心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物を持って来て頂いて、なるべくなじみのものが目に触れるような環境を作っている。	居室の入口にはそれぞれ表札が掛けられており、部屋にはベッド、チェスト、洗面台、加湿器付き空気清浄機、エアコンが備え付けられている。利用者はそれぞれ自分のお気に入りの家具や家族の写真などを持ち込んで、居心地の良い空間となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を付けたり、トイレの表示を大き目の物にするなど工夫している。理解の困難な方には、さり気なく職員が誘導・補助するなどして、出来るだけ残存機能を活かせるよう対応している。		